

第五話

流れてきた死体



ある浜に一人の漁師がいたんだと。

とても貧乏で、どうにもこうにもならない生活をしていたと。

ある朝のことだったと。大時化^{おおしけ}があつて、漁に出ることができなかつたが、しばらくして時化がおさまつたので、浜辺に出てみたら、浜に大きな男が打ち上げられていたんだと。

どこからか流されてきたもんだか、もう息をしていなかったと。

「気の毒なことだな」

独り言しながらよく見たら、その男の懐^{ふところ}に大きな財布が入っているのが見えたんだと。あたりに誰もいないのをいいことに、男

はその財布を盗って自分の懐にいれ、死んだ男を海さ流してやっ
たんだと。

ねんごろに葬ほうむってやればよかったんだが、男はそうしないで、
財布を持って一目散に家さ向かって走ったんだと。

それからは、女房ももらって、なに不自由なく暮らすようになって
たが、なんかおかしいことが続くんだと。どうも不都合なことば
り出て、落ち着かないんだと。

いろいろと考えてみるんだけど、どうもあの懐から財布を盗っ
て、そのまま海さ流してやった男のことが頭から離れないんだと。

そのうち、どうにもこうにもならなくなって、青森の恐山おそれさんさ

行ってお祓はらいしてもらうことを考えたんだと。

恐山の和尚さんに、その男のことはなにも話さねえで、

「うちはなんだか悪ことばり続くんで、どうぞ拜んで祓はらってけら
いん」

って言ったら、

「わかりました、ちよつと待ってください」

って、和尚さんは漁師をそこさ置いたまま行ってしまったんだと。

それから、しばらくして戻ってくると。

「さあ、こつちさ来てくれないん」

って、本堂の裏さ連れていかれたんだと。

「なんだべ」

と思ひながら和尚さんのあとをついていくと、本堂の裏に、あの海辺で死んでいた男が、漁師の前さ、ぱーっと出たっつんだね。漁師はぞつとしたつんだ。

「あんた、見たとうりでございますよ」

和尚さんに言われて、漁師はこれまでのことをみんなありのまま話したんだと。

そして、泣きながら懺悔ざんげして謝って、海辺で死んでいた男の霊とむらを弔とむらったんだと。

それから、その漁師はどうなったか、っていうのか？

それはとんと聞かねかったなあ。